

第 13 講 カリキュラム・マネジメントと音楽科経営の 自己評価

【学習到達目標】

- (1) カリキュラム・マネジメントの 3 つの側面から、音楽科経営の重点を説明できる。
- (2) 音楽科経営の自己評価の観点と振り返りについての考え方を説明できる。

1. カリキュラム・マネジメントの 3 つの側面と実践のポイント

カリキュラム・マネジメントについては、マネジメントの技法としての 3 つの側面が示されている。この 3 つの側面を手がかりとしながら、学校の教育目標を達成するうえで、音楽科がどのように貢献できるのか、具体的な音楽科経営のカリキュラム・マネジメントについて検討したい。

- (1) 学校の教育目標を踏まえ、教科を横断して目標達成に必要な学習を組み合わせるなど、教科を横断し、広い視点をもつ

側面① 学習の基盤となる資質・能力や、現代的な課題に対応できる資質・能力の育成に向けて、教科等や学年の枠組みを越えた横断的な視点で学びを組み立てる。	カリキュラム・マネジメントの3つの側面 教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる 自分の思いを自信をもって伝え合える子供を育てよう！ 社会科で学習した地域の伝統や文化を、新しく学校に来たALTの先生に英語で伝えて、〇〇市のことをもっと好きになってもらおう。 教科で学習する地域の歴史、もっと身近に感じてもらえるように、その歴史を英語で発表しよう。 英語で発表する。そして、みんなに伝えるように、活動しよう。 "We can enjoy summer festival in OO City!" "Sounds good!" 外国語活動
---	---



スライド「カリキュラム・マネジメント」
文部科学省
(2020)

図1 カリキュラム・マネジメントの 3 つの側面（複数教科等の連携、教師連携）

児童と学校、地域の現状を把握し、地域の特徴や地域の願い、子供たちの学習面や生活面での課題、また、社会の一員としての現代的課題（国際理解、情報、環境、福祉・健康・環境教育・ESD・情報教育・プログラミング教育・防災教育・キャリア教育・食育など）を把握し、どの教科等や学年で課題を解決していくための資質・能力の育成に向けて、音楽科として何ができるのか、明らかにする。21 世紀型の資質・能力の育成は、1 つの教科等をもって単独で迫れるものではないため、教育課程



Ⅲ. カリキュラム・マネジメントの三つの側面 【②】PDCAサイクルとは～授業の効果の確認と改善

＜目標・計画＞からのカリキュラム・マネジメント

```
graph TD; A[＜学校教育目標＞] --> B[＜資質・能力＞]; B --> C[＜教育課程の編成＞]; C --> D[＜指導計画、単元の作成＞]; D --> E[＜授業案＞]; E --> F[＜授業＞];
```

～ | + 国語 独立行政法人教育政策実施機構

21 世紀型学力をつけていく上で、音楽科としては、音楽を通して、自らの人生を心豊かに生き、他者と協働しながら新たな価値を生み出すことへの期待をもつことができる資質・能力を育成したい。その上で、小学校音楽科学習指導要領を踏まえつつ、学年ごとの題材構成と年間指導計画を考える。音楽を愛好し、他者と共に、創造的に音楽を表現したりつくったりする喜びを味わったり、一人一人の課題意識に基づいた学習を達成する経験をしたりできる、主体性や協調性、創造性を育てることができるような学習を計画したい。年間指導計画作成にあたっては、図3のように、教育基本法との対照/他教科との関連の欄を設けて、生活科との関連（4月）、創造性を養う（5月）など、年間指導計画立案の題材配置コンセプトを記載しておくことよい。

[illegible]

(2) 教育内容の質の向上のために定期的に調査等を行いながら、教育課程を編成し、実施し、評価して改善するという一連のPDCAサイクルを確立する

側面②

全国学力・学習状況調査や体育・運動能力調査、アンケートなどの各種の調査結果等を活用してPDCA サイクルを実施し、指導の効果の確認と改善を図る。

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

学校教育の効果を常に検証して改善する

自分の思いを自信をもって伝え合える子供を育てよう！



図3 カリキュラム・マネジメントの3つの側面（教育効果の検証と改善・PDCA サイクルを回す）

PDCA サイクルは、授業の効果の確認と改善のため、これまでのカリキュラムを見直し、効果と課題を洗い出す（C）、次いで改善を図り（A）、年間指導計画や題材を編成し直して（P）、実行する（D）流れである。PDCA サイクルで、音楽科経営を改善し、よりよいものにして回していく。サイクルのスパンについての考え方は、題材毎、月や学期をサイクルに、また、学校行事をサイクルにするなどして、改善が次に生かせるようにしていきたい。

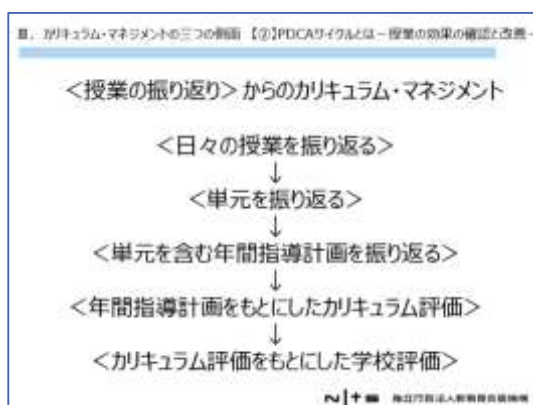


図3 ＜目標・計画＞＜授業の振り返り＞からのカリキュラム・マネジメント

PDCA の着眼点としては、目標と計画から、学校教育目標と教育過程と諸計画をつなぎ、授業の振り返りを組織的な営みとして位置づけ、カリキュラム・マネジメントと学校評価をリンクさせていくとよい。教科経営の自己評価が重要である。

授業効果の確認と改善のためのチェックポイント（C）を挙げておく。

ポイント①「学校の教育目標」と「教育課程」はつながっているか。

- ・「学校の教育目標」と「教育課程」をつなぐ。

ポイント②「教育課程」と「授業」はつながっているか。

- ・「教育課程」と「教育活動（授業）」をつなぎ、「諸計画のつながり」を

改善する。

ポイント③「学校の教育目標」、「教育課程」、「授業」は、児童、地域、学校の実態に応じたものになっているか。

・学校評価との関連を図り、改善の切り口や重点を精査する。

(3) 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源も含め活用し効果的に組み合わせる。

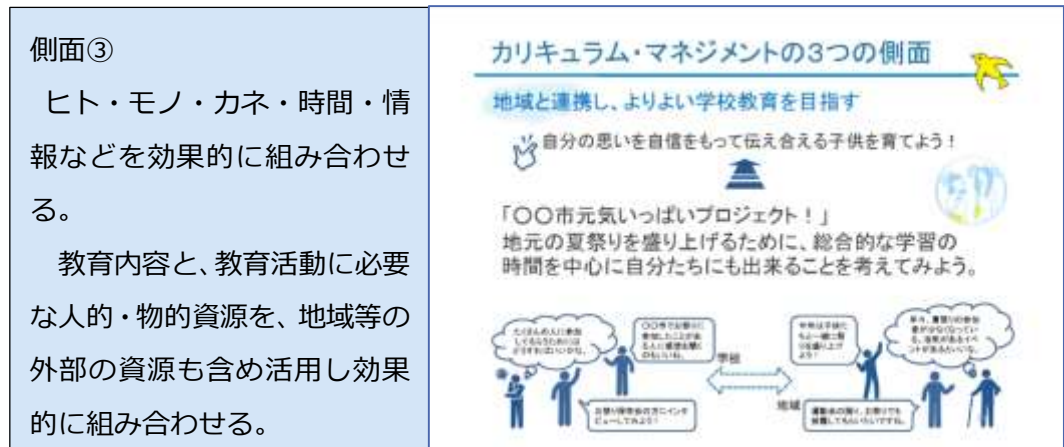


図4 地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

日常生活や社会の中で、音や音楽が人々の暮らしとどのようなかかわりをもって
いるかに気付き、それをよりよい暮らしに生かしていく方法を考える伝統文化などの
地域学習が、総合的な学習や生活科で行われている。地域の民謡や民俗芸能の伝承・
表現活動、地域に在住する諸外国の人との音楽文化活動などは、音楽からの視点を加
える内容で題材構成ができる。

2. PDCA サイクルと音楽科経営の自己評価

(1) 音楽科経営の指導の重点と自己評価の考え方

音楽科の役割は、感性の育成に重点をおいた音楽の表現や鑑賞の活動を通して、生
徒の心を豊かにしていくことにある。指導にあたっては、学習指導要領の目標や内容、
生徒の実態等を配慮しながら、音楽科の指導の重点を明確にし、「教科経営案（シラバ
ス）」を作成していくことが必要である。これは、各学校における教科経営の指針とし
て、子供にも分かりやすい言葉で公開することを前提として作成すべきである。さら
に、ねらいにふさわしい教材を選択しながら、題材を構成し、年間指導計画（カリキュ
ラム）を作成していくことになる。

日々の実践における生徒個々の目標の実現状況をとらえながら、指導の改善を図っ
ていくことが教科実践の自己点検・自己評価の営みである。ここでは、教科経営案に

示した指導の重点の達成状況をふまえて、教科経営の改善を図っていく方途について述べていくことにする。図5に、本年度の指導の重点例を示す。

○感性を育む教科指導の充実

- ・目標・計画からの題材づくり、効果的な年間指導計画の在り方において、日本の音楽、世界の諸民族の音楽、現代音楽等、音楽観を広げ深めることが期待できる教材の開発
- ・一人一人の興味・関心や能力を生かすことができる個別最適な授業設計の工夫
- ・感性の育成をねらいとしたカリキュラム・マネジメントの実施と公開
- ・「もっと学びたい」と思って終える授業づくり

○地域と連携し、音楽の生活化を図る場の工夫

- ・鑑賞会、合唱祭等の実施
- ・学校開放日における地域講座の開講

図5 本年度の音楽科の指導の重点（例）

（2）音楽教科経営の自己評価の実際

教科経営の自己評価にあたっては、（1）で示した指導の重点事項の達成状況についてとらえることになる。そのためには、事前に、重点に示した事項ごとに評価の観点を設定するとともに、評価方法を想定しておくことが重要となる。

基本的には、音楽科や担当する学年の教員による自己評価が中心となるが、必要に応じて、生徒や保護者、地域の方々も評価者として想定し、客観性を確保することが大切である。さらに、評価結果を踏まえて、課題が残されたものについては、次の指導や次年度の年間指導計画の作成に向けて「改善の方途」を明確にしたり、成果があったものについては「充実の方途」を検討したりすることが求められる。

次の資料は、年度末に作成している指導の重点の実現状況をまとめたものである。これは、次年度の年間指導計画作成資料の一部と位置付けている。

本年度の指導の重点		重点具現化の方策	評価の観点 (評価方法／評価者)	評 価	改善の方途
感性を育む教科指導の充実	音楽観を深める教材開発	・題材「アジアの箏の音楽を楽しもう（５年）」において、比較鑑賞の教材を開発、また、映像が伴っている動画を活用	・音楽観を広げ深めるためにアジアの箏の音楽を教材化できたか (教材化の状況の確認／指導者による評価)	・アジアの箏の音楽の教材化が図れたが、映像や楽曲解説が不十分なものもあった。演奏法の違いによる音色の違いが、子供たちにとって興味深かったようである。	・日常からの情報収集に努める。 ・収集した資料のデータベース化を図る。
	主体的対話的で深い学びの授業設計	・題材「追いかけるふしを楽しもう（６年）」において、難易度別に楽曲を選択してアンサンブルに取り組む学習の実施	・難易度に応じた表現方法や楽曲の選択ができたか（楽曲の難易度の再分析／指導者による評価、生徒からの評価） ・自己の技能にふさわしい曲を選択して、音を聴き合わせることができたか（楽曲の選択状況の分析／指導者による評価、生徒からの評価）	・手引を参考に、８割程度の生徒が、自己の技能にふさわしい曲の選択ができた。あとは、相談活動の時間が不足した。 ・機器や情報は十分に準備できたが、練習時間の不足があった。曲の好みだけでなく、技能に適した方法を選択することが課題である。	・タブレットで家庭でも学習ができるよう、クラスルームにコンテンツを掲載しておく。 ・生徒がアンサンブル後の満足感を味わえる程度の時間確保を前提にして、年間指導計画の配当時間数の変更を考える。
	授業研究の実施	・校内授業研究において授業研究を組織的な営みとして位置づけ、特に、低中高の学年間の連携を大切に、検証授業のスタイルで実施	・学年を越えて授業研究を行ったか（授業研究の取組状況の分析／教師による評価） ・指導方法の工夫改善を意識した授業研究が実施できたか。 (授業研究の質的な分析、授業後の反省会の内容分析／指導者による評価、参観者からの評価、生徒からの評価)	・多忙感を感じながらも実施できた。 ・カリキュラム・マネジメントという点では工夫した実践があったものの、授業によっては、（授業者が異なると）毎年更新しにくく、学年の独自性が発揮しにくいという指摘があった。	・PDCA サイクルを意識して、改善を目指した授業研究を行う。 ・他校や指導的な立場の先生にも参観してもらい助言を受ける。
音楽の生活化を図る場の工夫	鑑賞会合唱祭等の設定	・地元交響楽団の鑑賞会を設定し、中学校ブロックの吹奏楽部やオーケストラ伴奏の合唱をプログラムに含めて実施 ・合唱祭において、地域の公民館合唱サークルの住民を招待するとともに、合同合唱を実施	・音楽を聴いたり演奏したりすることを楽しんでいたか（児童や参加者の感想分析／教師による評価、参加者からの評価） ・合唱する喜びを実感しているか（児童の様相・感想の分析／教師による評価、児童の自己評価）	・参加者全体が音楽を楽しんでいる状況であった。合唱はリハーサルなしであったため、戸惑いがみられた。 ・合同合唱は声域の違いに少々無理があったが、一緒に合唱をしたという点では、地域の方が喜んでおられる感想が多かった。	・校歌の合唱編曲や吹奏楽伴奏編曲を取り入れると校歌があがると思われる。 ・公民館の主事との連携を密にする。事前に、地域の文化祭やサークルにお邪魔して、日ごろの練習状況を把握しておく。
	地域開放講座の開設	・11月の学校開放日に保護者・地域の方々、及び希望生徒を対象にした公開講座「日本のうたのよさを探る」の設定	・有益な公開講座であったか (参加者の様相・感想の分析／指導者による評価、参加者の評価) ・参加者間の交流があったか (参加者の活動状況の分析／指導者による評価)	・参加者が生徒、保護者、地域の方々等多岐に及んでいたため、発問がしぼりにくかった。しかし、同じ音楽を歌ったり聴いたりしても年齢による感受の違いを子供が実感できた点での効果は大きかった。 ・「われは海の子」の解釈が児童と高齢者で違った点で交流が深まった。	・参加者数が多すぎたので、2回（2コマ）実施する。 ・異年齢の学習の効果を他校にも発信する。

表１ 本年度音楽科経営の指導の重点と自己評価（例）

カリキュラム・マネジメントの実践にあたっては、学校や教員の創意工夫を生かした取り組みが多様に展開されることが、カリキュラム・マネジメントの発展に欠かせない。教師の専門性である教科力が問われ、音楽性や音楽観が試される。

インストラクショナルデザインで、学びのプロセスに従って組み立てる授業を積み重ねるとともに、子供の成長を支援する小・中 9 年間の長期の学びを促進するためのダイナミックな年間指導計画（大規模・長期）づくりに、カリキュラム・マネジメントは有効である。カリキュラム・マネジメントで大切にしたいことは、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、全教職員が持ち味を活かしながら力を合わせ、わが校の教育課程を全教職員が語れる学校づくりに参画していくことである。

【参考文献】

- 1) 文部科学省(2020) スライド「カリキュラム・マネジメント」
- 2) 天笠 茂「カリキュラム・マネジメント」(独立行政法人教職員支援機構)
- 3) 宮下俊也(2018)「平成 29 年改訂 小学校教育課程実践講座 音楽」
- 4) 初等科音楽教育研究会 編(2020)「初等科音楽教育法」(音楽之友社)
- 5) 藤田文子(2019)「音楽科におけるカリキュラム・マネジメントに関する研究 -幼稚園、小・中学校、高等学校における理論と実践を中心に-」(茨城大学教育実践研究 38(2019),p25-34)
- 6) 高階玲治、岩木美詠子 他(2003)「学校の自己評価・外部評価」(教育開発研究所)

課題

1. PDCA サイクルにおける音楽科教育経営の自己評価を行いなさい。